

## 令和8年度第1回小牧市少年センター運営協議会 議事要旨

- 【日時】 令和8年6月4日(木)午前10時～11時
- 【会場】 市役所本庁舎3階301会議室
- 【出席委員】 安藤委員、兼子委員、藤原委員、大谷委員、星熊委員、坂委員、川崎委員、河内委員、松本委員、大野委員
- 【事務局】 川尻こども未来部長、野田こども未来部次長、小川こども政策課長、植松少年センター所長、舟橋指導員、梶浦指導員、千種指導員、松浦係長、白木
- 【オブザーバー】 坂田主幹（市民安全課）、和泉指導主事（学校教育課）
- 【傍聴者】 なし

### 【内容】

#### 1 開会・委員委嘱

※ 資料配布をもって説明

#### 2 あいさつ（川尻こども未来部長）

本日は、小牧市少年センター運営協議会にご出席いただき、ありがとうございます。また、日頃から青少年の健全育成にご尽力いただいておりますことに、心から感謝しております。

近年は、スマートフォンやSNSの普及により利便性が高まる一方で、孤立や誹謗中傷などの課題も見られるようになっていきます。さらに闇バイトの問題など、青少年がさまざまなリスクにさらされている状況だと感じております。

こうした中で、関係機関や地域の皆様と連携しながら、適切な支援を進めていくことが重要だと考えております。

本日は、今年度の活動方針についてご審議いただきますので、率直なご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

#### 3 委員・事務局紹介

※ 委員名簿の順に自己紹介

※ 事務局（こども未来部、少年センター）自己紹介

※ オブザーバー自己紹介

#### 4 役員選出

司会より、役員選出について、少年センター運営規則第5条第2項に基づき、会長は委員の互選により選出する旨を説明。

河内委員より、安藤委員を会長に推薦する発言があり、司会が承認を諮ったところ異議はなく、安藤委員が会長に選出された。

続いて司会より、同規則第5条第4項に基づき、会長が職務代理者を指名する旨を説明。安藤会長より、河内委員を職務代理者に指名する旨の発言があり、司会が承認を諮ったところ異議はなく、河内委員が職務代理者に選出された。

(会長あいさつ)

ただいま会長職を仰せつかりました。

委員の皆様には、いろいろな形で青少年と関わりを持っていただいています。その皆様の豊富な知識や経験を抛り所として、会長の任を果たしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

#### 5 議題

(1) 令和8年度活動方針について

(2) 令和8年度実施計画について

要覧6ページから11ページまでに基づき、植松所長より説明。

#### 質疑応答

(星熊委員)

要覧7ページに少年相談カウンセリング活動の記載があるが、各学校をカウンセラーが訪問し行われているのでしょうか。

(少年センター)

要覧に記載のカウンセリングは、少年センターとして行っているものです。臨床心理士に少年センターに来ていただき、予約制で行っています。

質問のあった学校への巡回については、市または県からカウンセラーが配置され、それぞれの曜日に行っています。

⇒質疑応答の後異議はなく、(1)と(2)については承認された。

### (3) 補導・相談活動について

要覧 15 ページから 17 ページまでに基づき、梶浦指導員と千種指導員より説明。

⇒質疑・異議はなく、(3)については承認された。

## 6 意見交換

### (安藤会長)

子どもたちの学校現場でお勤めの方や、地域としてそれを支えていただく立場の方と、さまざまな方が委員としていらっしゃいます。まずは学校現場から、現在の児童生徒の様子について感じておられることとお話してください。

### (兼子委員)

小学校では特に問題は起きていません。

中学校では、先生方から、校内は概ね落ち着いているものの、学校外での喫煙といった話が聞こえてきたり、他校や卒業生とのつながりが見え隠れして心配だという声があったりします。

また、他市の児童や生徒とのつながりができてしまうことも心配なので、引き続きアンテナを高くして連携しながら対応していきたいという声を聞いています。

さらに、16歳の少年による強盗殺人の話について、中高連絡会では「同年代のできごととして『だめだよね』で終わるのではなく、憤りを感じるような人間になってほしい」という話が出ました。

### (藤原委員)

今兼子委員からもお話があったとおり、小牧高校でも校内では落ち着いて過ごしていますが、外に出るとまた違う様子があるように感じています。大きな問題を起こすわけではないものの、指導の中でいろいろ話をして、聞いてはいるし聞きもするけれど、実際の行動を見るとあまり響いているように感じられません。

こうした中で、学校だけでなく地域の中でどう関われば伝わるのか、どうすれば気づきにつながるのか、皆さんがどのように対応されているのかお聞きしながら、連携してアプローチを考えていければと思っています。

市内の高校の状況については、校長会でも話題になりますが、学校内で落ち着いている状況は大きく変わっていません。今申し上げたことは、どの高校でも、また普段子どもたちと関わる皆さんにも共通するものではないかと感じています。

以上、提案といいますか、お尋ねも含めた報告とさせていただきます。

(安藤会長)

子どもたちの心に響かないというお話がありました。警察の立場から、他市の子どもたちとの関わりのお話も含めていかがでしょうか。

(大谷委員)

警察としては、小牧市の子どもたちはよその子とつるむことが少なく、外から人が入りにくい環境だと感じています。仲間内でのけんかや恐喝といった事案はあるものの、その点では地域的に見て環境は比較的良いと思っています。また、市内に暴力団事務所がないことも特徴で、他地域のように抗争に伴う学校への注意喚起が必要になる状況はありません。

先ほどの「心に響いていないのでは」という話ですが、警察も子どもと接する機会が多く、薄っぺらい対応では見抜かれてしまいます。そのため形式的ではなく、何とか助けたいという気持ちを、熱意をもって伝えることを大切にしています。

1 か月前に、某中学校を卒業した子どもを事案として扱いました。そのときはけんか別れをしましたが、先週ばったり会ったときにも歩きながら話しました。子どもは注意されなくなると「もうどうでもいいと思われている」と受け取り、かえって非行につながることもあります。反発されることがあっても、あきらめず根気強く関わり続けることが大切だと考えています。

(安藤会長)

ありがとうございます。熱意をもって諦めず伝えていくことの大切さをお話しいただきました。行政の立場からはいかがでしょうか。

(星熊委員)

直接子どもたちと関わる機会は多くありませんが、青少年のパトロールを行う中では、巾下地区は比較的落ち着いていると感じています。一方で、公園にたばこの吸い殻が落ちていたり、喫煙している姿を見かけたりすることもあり、校内では落ち着いていても、校外では違った様子が見えることを実感しています。

また、中学生になると大人に近づく中で、自分の悩みを人に打ち明けづらくなり、そのことが非行につながっている面もあるのではないかと感じています。

学校や家庭、地域でしっかりと対話を続けながら、ネットワークを持ち続けることが大切であり、行政としても、指導員の皆さんにご協力いただきながら、引き続きサポートできる体制をつくっていきたいと考えています。

(安藤会長)

ありがとうございます。PTAの立場からはいかがでしょう。

(坂委員)

岩崎中学校では、地域とのつながりを強める取組を進めています。生徒が学校にいる時間はせいぜい8時間ほどと限られており、多くの時間を家庭や地域で過ごすことから、地域との関わりが大切だと考えています。

具体的には、夏祭りにボランティアとして参加してもらったり、地域奉仕活動として地区の会館や公園の清掃を手伝ってもらったりするなど、地域と中学生が関わる機会をつくっています。

学校の先生だけでなく、地域全体で中学生を見守っていることが伝わるよう取り組んでいます。教育には正解がなく、効果をすぐに判断できるものではありませんが、地域とのつながりがあることで、悪いことをしにくくなる部分もあるのではないかと考えています。

(安藤会長)

大変ありがたい活動をしていただいています。子どもたちは、「ありがとう」「お疲れさま」と声をかけられ、自分たちの頑張りを認めてもらえることで嬉しそうな表情を見せてくれます。認められたと感じる瞬間に心を開いてくれます。

岩崎中の取組のように、子どもたちと触れ合う機会が多いほど関わりも深まると思いますので、今後もそうした機会への参加をお願いしたいと思います。

立場が変わりますが、子育て世代包括支援センターの関わりはどうですか。

(川崎委員)

私たちは啓発活動というより、実際に問題が起きたあとにお子さんや保護者の方と関わる機会が多くあります。その中で、先ほどもあったように、限られた時間や数回の関わりの中で、どれだけ思いが響くかという難しさを感じています。

また、子どもの年齢はあまり関係なく、保育園から高校生まで共通する部分がある

と感じました。実際に、次に小学校へ上がるタイミングで東京へ引っ越した子どもに「あなたを助けてくれる人は必ずいる。何かあったら学校の先生に言いなさい」と送り出したことがありました。その時はあまり響いていないように感じていましたが、数か月後に東京で自ら「助けてほしい」と声を上げ、保護できたと連絡を受けました。大谷委員の話にもあったように、熱意を持って諦めず関わることの大切さを改めて感じました。

(安藤会長)

ありがとうございます。河内委員は少年センターの補導員や保護司という立場ですが、その中で感じたことはありますか。

(河内委員)

岩崎中に通う孫のところに、LINEで「日特付近で黒づくめの男の人がにらんでいるので、一人で登校するときは気を付けて」と連絡があり、心配して数日一緒に登校しました。学校や警察にも連絡を入れて様子を見た結果、1年生が集団で横断歩道をわいわい渡るので、邪魔に感じられたのではないかと思いました。結果として特に問題はなく安心しました。

また小牧山北側の横断歩道では、小牧中学校の男子生徒が、止まってくれた車に対してしっかり頭を下げている様子を見かけ、良い姿だと感じました。

(安藤会長)

そういった姿を見るとほっこりします。止まってよかったなと思いますね。ありがとうございます。保護司の立場から、松本委員にお願いしたいと思います。

(松本委員)

最近は感情が見えにくく、淡々としている子が多いと感じます。現在受け持っている15歳の子とも毎月2回面接を行いますが、話をしても当たり障りのない受け答えが多く、保護司を特に怖がる様子もなく、普通に来て普通に帰っていきます。面接では生活記録を提出してもらっていますが、その中に「たばこ代3,000円」と書かれており、本人に聞くと「両親が吸っているので昔から吸っている」と話します。お酒についても「禁酒しました」と言うので驚きました。何が良くて何が悪いのかという感覚が十分に身につけていない子が多いと感じます。

面接では善悪について重点的に伝えるよう心掛けていますが、普通なら隠しそうなことも淡々とやっているの、なかなか伝わっていない難しさも感じます。

(安藤会長)

貴重なお話をいただきました。今回新しく就任された大野委員はどうですか。

(大野委員)

主任児童委員としての役割の前に、小中学校ではPTA 会長を務めていました。中学校では、昔は見た目に分かりやすく、校門で生徒指導の先生が不良を捕まえていました。今子どもに聞くと「喫煙している生徒はいる」と言いますが、あいさつ運動で立っていても見た目ではまったく分かりません。学校内と外で使い分けているのだろうと思います。

また、日本では10代の自殺率が高い状況が続いていますが、子どもたちは普段は明るく元気にあいさつを返してくれるため、表面からはなかなか見えません。その背景には、インターネットやSNSの普及による影響も大きいと感じます。

時代が変わって、これまでと同じやり方では対応が難しい中ではありますが、時代が変わっても、最後は家庭に起因するのは変わらないと思っています。ただ、プライバシーやハラスメントと言われて声かけも難しい時代です。学校からも以前ほど情報がもらえなくなり、歯がゆさを感じています。巡回や見守り活動は引き続き必要だと思いますが、根本的な解決につなげるのは難しいのかもしれない。

(安藤会長)

ありがとうございます。皆さんから貴重なお話をいただきました。それでは時間になりましたので、意見交換を終了します。進行を事務局にお返しします。

## 7 連絡・依頼事項

植松所長より、6月30日に「笑顔で さきがけ あいさつ運動」を行う旨を説明。メイン会場は岩崎中だが、委員の皆様にも近くの学校に出かけていただいたり、身近なところであいさつをしたりと、活動への理解と協力を依頼した。